

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間評価から最終評価への推移を見ると、B評価⇒A評価が4項目、逆にA評価⇒B評価が2項目であった。全体的に高評価が増え、教職員が中間評価での取組反省を生かして、現状を変えようとする意識化と具体的な改善（強化）策が図られたためである。</li> <li>国語科の校内研究に熱心に取り組むことで、児童の主体性を引き出すための授業（指導法の工夫）に積極的に取り組むことができた。まなび部を中心に、経験豊富な教員が、若手教員にノウハウを丁寧に伝えたことで、児童の学力や学習意欲の向上に大きく貢献した。</li> <li>本校の特色である「無言・無音掃除」「高小流あいさつ」は、良き伝統・習慣として定着しているが、その伝統を受け継ぐことがやや難しくなっている。教職員が、「児童に指導をする」という考えではなく、「児童と一緒に育つ」という意識の変化（強化）を今後も更に図ってきたい。</li> <li>「自学」を主とした家庭学習については達成率が大きく下降している。学校での取組内容について、学級・学年・学校だよりをはじめ、さまざまな機会を捉えて、情報発信を行う必要がある。また、コロナ禍で実現が困難だったPTA活動の場でも、積極的に学校の取組方針や内容について周知徹底を</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<p><b>えがお かがやく 高小の子供</b></p> <p>～「時を守り 場を清め 礼を正す」～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>「郷土愛の育成」「ほめほめ活動の推進」「時を守り 場を清め 礼を正す」の徹底が本校の特色である。これらの特色をより強固にしなが、ますます『えがお かがやく 高小の子供』を育てる。</p> <p>○「時を守る」・・・「時間を守る」 ○「場を清める」・・・「整理整頓をし、清潔にする」 ○「礼を正す」・・・「相手を尊重し、礼儀正しくする」 ○「時・場・礼」の基盤・・・「早寝早起き朝ごはん」「高小流あいさつ」</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・PDCAサイクルを意識した単元ごとの振り返りをもとに、指導の工夫改善を行う。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師が74%だった。以上学力向上対策シート「マイプラン」を学年で共有し、学年で共通した指導やワークシートの活用を行い、指導の工夫を図ることができた。					まなび部	
	○児童が自ら進んで学習活動に取り組む授業の実践	○「授業中、自ら進んで学習活動に取り組んでいる。」と答える児童を80%以上にする。	・すべての児童が自律的に学習に取り組めるよう、業間の過ごし方や授業の進め方、授業の流れを全校で統一して共通確認して実践する。	B	・児童の学校アンケートでは、85%の児童が、自律的に学習に取り組んでいると答えている。業間の過ごし方がうまくできていない児童が多いと答えているので、クラス全体で取り組むカードなどを用意し、時間を守る指導を継続したい。					まなび部	
	○児童が自ら進んで取り組む家庭学習の充実	○「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。」と答える児童を85%以上にする。	・自学メニュー表を提示したり、自学掲示板などで友達の自学を紹介したりして、児童が楽しんで学習できる内容を提示し、学習意欲を高める。 ・学年に応じた宿題の出し方を検討し、学年の実態に応じた内容や量を提示する。	B	・児童の学校アンケートでは、86%の児童が、自ら進んで家庭学習に取り組んでいると答えている。自主学習ノートでは、玄関や教室、廊下に掲示板を用意したことで、参考にしながら取り組む児童が増えた。今後は、それでも書くことに戸惑っている児童に増し削りをして参考になる自学を渡すなどしていき						まなび部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「児童同士が相互理解を深めるような活動を仕組んだり指導をしたりしている。」と答える職員を90%以上にする。	・職員研修等で現在の学級経営や困り感を抱えている児童の現状を把握・分析をする。 ・各学級での取り組みを紹介したり共有したりする場を設け、学級活動の質の向上に努める。	B	・全職員で、それぞれの担当学年の児童の実態や課題を把握し、その原因や背景について情報交換など話し合いを行った。 ・研修会で講師を招聘して職員の学習会を開いたうえで今後の取り組みについて話し合い、2学期に実践して						こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている。」と答える児童を90%以上にする。	・毎月「こころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握し、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ・気がかりな児童には個別の対応を継続し、毎月の生指相会議で職員間の情報共有を図る。	B	・「友達と楽しく学校生活を送っている。」という質問項目にあてはまると答えた児童が93%であった。 ・毎月の「こころのアンケート」により、児童の生活の実態把握をすることができた。 ・気がかりな児童について、生指相会議で全体で情報						こころ部
	○整理整頓の意識付け	○「進んで履物をそろえている。」と答える児童を、90%以上にする。	・委員会の児童や職員で、定期的な靴箱チェックを行い、全校放送で称賛したり、呼びかけを行ったりする。	B	・児童の自己評価では、85%が意識していると答えているが、一部の児童が進んで履物揃えを行っている場面を見かける。「シューズを貼っていく」「@△を掲示する」等、学年に応じた視覚に訴える手立てを行う。						くらし部
	○無言・無音掃除の徹底	○児童が、「無言無音掃除」の必要性を十分に理解し、「話もせず音も立てずに掃除をしている。」と答える児童を、80%以上にする。	・掃除時間の前には、無言で掃除場所へ移動し、黙想で心を落ち着かせて、無言無音掃除をするよう指導を徹底する。	B	・児童の自己評価では、72%が意識していると答えているが、移動時間が5分間しかないため、掃除の始めが落ち着いた状態で始まっていない。8:15教室移動、黙想の放送でその場で立ち止まることを学校全体で意識づけを行う。また、教師が掃除中に声を出して指導をしないように、学期初めに各学						
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「『早寝早起き朝ごはん』を意識して生活している。」と答える児童を、休日を含め80%以上にする。	・「すこやか点検表」の項目に「10時までに就寝」「決めた時刻に起床」「朝食摂取」を入れ、長期休業前後を中心に実施する。また、保健便り、給食便り等で、早寝早起き朝ごはんの大切さを呼びかける。	A	・児童の自己評価では、81%が意識していると答えているが、実際は「遅刻が多い」「寝不足で授業中居眠りする」「朝ごはんを食べない」などの児童が増えているようだ。更に、「早寝早起き朝ごはん」の大切さをすこやか点検などで呼びかける。						からだ部
	○「高小流あいさつ」を習慣付け、学校や地域（家庭）でも、時と場に応じて、「レベル1『明るく元気なあいさつ』をしている。」と答える児童を90%以上、「レベル2『立ち止まって挨拶をして』あいさつをしている。」と答える児童を80%以上にする。	・「高小流あいさつ」を周知し、毎朝、計画委員会（あいさつ運動）を実施し、毎日、給食時間に「あいさつ名人」を紹介する。学期末に「あいさつ名人」を発表し、「あいさつ名人パジャマ」賞状を授与する。 ・「めざせ！あいさつ名人」のポスターを作成・掲示し、日頃から意識できるようにする。 ・毎学期初めに、あいさつ強化週間を行い、学校全体であいさつへの意識付けを行う。	B	・児童の自己評価では、78%が意識していると答えているが、実際は「決まった児童だけしている」「高学年があまりしない」「自分から進んでする児童が減っている」「立ちどまってはなかなかやらない」などの反省がある。更に、あいさつ強化週間を行い、教師自らが率先し、学校全体で意識づけを行っていく。							からだ部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限（月45時間、年間360時間）を遵守し、勤務時間を意識した働き方を定着させる。	・学年主任と各専門部長の分離やミドルリーダーとしての重責化を促進し、業務の平準化を図る。 ・「成績之期制」を継続実施し、評価時期には約17日間の特別時を設定する。 ・会議数（時間）や協議内容を精選するとともに、業務等の役割分担による教材・資料の共有を進める。	B	・月45時間を遵守している教職員が50%と少ない。6月に働き方に対する意識改革を図ったが、まだ浸透していない。引き続き、業務の平準化を図りながら、勤務時間を意識した働き方を定着させる。						教頭 主幹教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育（郷土愛）	○佐賀や日本の導き手を育成するための地域（家庭）の協働意識の向上	○「学校は地域（家庭）と連携して、特色ある教育活動を行っている。」と答える児童を75%以上にする。	・地域やPTAとの連携を図り、参加・参画を依頼するとともに、児童が地域行事に参加しやすいように、地域やPTAからの情報を学校でも伝える。 ・職員も年間3回を目標に、PTA・地域行事（夏祭り、文化祭など）に参加・参画する。	B	・地域と連携して、特色ある教育活動を行っていると答える児童が54%しかない。地域住民の学校行事への参加を、何とか形を変えてでもできないかと模索したが、コロナウイルス感染拡大が収まらず、参加が実現しなかった。別の形で地域とつながりが持てる方法を模索していきたい。					主幹教諭 指導教諭 教頭
○「ほめほめ活動」	○自己肯定感・自己有用感の高揚	○「友達の良いところを認め、ほめている。」と答える児童を80%以上にする。	・各学級で、棚りの袋等を利用して、級友を認め合う。 ・給食の時間に「ほめほめタイム」を実施し、全校児童を呼名してほめ合う。 ・計画委員会「ほかほかポスト」を設置し、「友達の善行」「してもらってうれしかったこと」を紹介する。	A	・給食時間に「ほめほめタイム」を実施し、「時・場・礼」の学校教育目標の観点に沿ってほめてきた。今のところ「友達の良いところを認め、ほめている。」と答えた児童が82%					指導教諭 教頭 主幹教諭
○人間形成の土台づくり	○「時を守り 場を清め 礼を正す」態度の育成	○「『時を守り 場を清め 礼を正す』に気を付けて生活している。」と答える児童を90%以上にする。	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始まったが、「時を守り 場を清め 礼を正す」に気を付けて生活している。」と答える児童が81%にとどまった。担任からの声掛けも行う必要を感じた。	B	・朝の放送、昼の放送の時、「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉から始まったが、「時を守り 場を清め 礼を正す」に気を付けて生活している。」と答える児童が81%にとどまった。担任からの声掛けも行う必要を感じた。					主幹教諭 指導教諭 教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--